

SYLLABUS

# シラバス

令和8年度前期

理学療法士科 1年次

医療法人社団 慈恵会

神戸総合医療専門学校

理学療法士科 教育課程（令和8年度前期）

1年次

科目名	単位数	時間数	年次	時期	科目名	単位数	時間数	年次	時期
倫理学	2	30	1	前期	理学療法評価学Ⅰ	1	30	1	後期
物理学	1	15	1	前期	理学療法評価学Ⅱ	1	30	1	後期
統計学	1	15	1	前期	理学療法評価学Ⅲ	1	30	1	後期
生物学	2	30	1	前期	理学療法評価学Ⅳ	1	30	2	前期
医学英語	2	30	1	前期	理学療法評価学Ⅴ	1	30	2	前期
保健体育Ⅰ	1	30	1	前期	理学療法評価学Ⅵ	1	30	2	前期
保健体育Ⅱ	1	30	1	後期	運動療法学Ⅰ	1	30	2	前期
情報処理演習	1	15	1	前期	運動療法学Ⅱ	1	30	2	前期
コミュニケーション論	2	30	1	後期	物理療法学Ⅰ	1	30	2	前期
キャリア教育Ⅰ	2	30	1	前期	物理療法学Ⅱ	1	30	2	後期
キャリア教育Ⅱ	1	15	3	前期	日常生活活動学Ⅰ	1	30	2	前期
解剖学Ⅰ	2	60	1	前期	日常生活活動学Ⅱ	1	30	2	後期
解剖学Ⅱ	1	30	1	後期	装具学	1	30	2	前期
解剖学演習Ⅰ	1	15	1	前期	義肢学	1	30	2	後期
解剖学演習Ⅱ	1	30	1	前期	運動器系理学療法学Ⅰ	1	30	2	前期
解剖学演習Ⅲ	1	30	1	後期	運動器系理学療法学Ⅱ	1	30	2	後期
生理学Ⅰ	1	30	1	前期	内部障害理学療法学Ⅰ	1	30	2	前期
生理学Ⅱ	1	30	1	後期	内部障害理学療法学Ⅱ	1	30	2	前期
生理学Ⅲ	1	30	1	後期	中枢神経系理学療法学Ⅰ	1	30	2	前期
運動生理学演習	1	30	1	後期	中枢神経系理学療法学Ⅱ	1	30	2	後期
運動学Ⅰ	1	30	1	後期	中枢神経系理学療法学Ⅲ	1	30	2	前期
運動学Ⅱ	1	30	1	後期	中枢神経系理学療法学Ⅳ	1	15	2	後期
運動学Ⅲ	1	30	1	後期	小児理学療法学	1	30	2	後期
人間発達学	1	30	1	前期	スポーツ障害理学療法学	1	30	2	後期
内科学Ⅰ	1	30	1	後期	疼痛理学療法学	1	30	2	後期
内科学Ⅱ	1	30	2	前期	理学療法臨床技能演習	1	30	2	後期
臨床心理学	1	30	1	前期	地域理学療法学総論	1	30	2	後期
精神医学	1	30	2	後期	生活環境学	1	30	2	後期
整形外科学Ⅰ	1	30	2	前期	地域理学療法学各論	1	30	3	後期
整形外科学Ⅱ	1	30	2	後期	臨床実習Ⅰ	1	45	1	後期
神経内科学Ⅰ	1	30	2	前期	臨床実習Ⅱ	3	135	2	後期
神経内科学Ⅱ	1	30	2	後期	臨床実習Ⅲ	7	315	3	前期
小児科学	1	15	1	後期	臨床実習Ⅳ	7	315	3	後期
一般臨床医学Ⅰ	1	30	2	前期	臨床実習Ⅴ	2	90	3	前期
一般臨床医学Ⅱ	1	30	2	後期	理学療法特論Ⅰ	1	30	1	前期
病理学概論	1	30	1	後期	理学療法特論Ⅱ	1	30	1	後期
臨床栄養学	1	15	2	前期	理学療法特論Ⅲ	1	30	2	前期
臨床薬学	1	15	2	前期	理学療法特論Ⅳ	1	30	2	後期
公衆衛生学	1	30	1	後期	総合理学療法学演習Ⅰ	3	90	3	前期
社会福祉学	1	30	1	後期	総合理学療法学演習Ⅱ	3	90	3	後期
リハビリテーション概論	1	30	1	前期					
リハビリテーション医学	1	30	2	後期					
理学療法概論Ⅰ	1	30	1	前期					
理学療法概論Ⅱ	1	30	2	前期					
臨床運動学	1	30	2	前期					
基礎理学療法学演習Ⅰ	1	30	1	後期					
基礎理学療法学演習Ⅱ	1	30	2	後期					
理学療法研究論	1	15	3	後期					
理学療法管理学Ⅰ	1	15	1	後期					
理学療法管理学Ⅱ	1	15	2	後期					

# 令和8年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
倫理学		講義	東 昌紀	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
最先端の医療技術が、現代社会に対して、これまでは考えられなかった倫理的問題を引き起こしている。それを自分自身の問題として引き受け、多角的に考察する力を身に付けることを目的とする。講義では受講生が自ら議論を深められるような論理的な展開の雛形を提示する。				
授業の到達目標				
倫理的問題をいくつかの観点から立論する能力を身に付けることができる。その結果自分自身の考えを相対化することができるようになる。価値の多様性に気付くことによって人間への尊敬を深めることになる。単位認定のレポートは授業の目標達成度を測るものである。				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス 生命倫理学の誕生と意味			
2	倫理学的問題を論じる2つの観点・生命倫理の4つの原則			
3	生と死			
4	死と脳死			
5	脳死と臓器移植			
6	日本における臓器移植			
7	功利主義、義務論の展開			
8	生殖技術			
9	遺伝子技術			
10	人工妊娠中絶 日本における法的根拠			
11	人工妊娠中絶 母性と胎児の生存権			
12	人間とは何か 医療システムと生存権			
13	人間とは何か 生存権の範囲			
14	安楽死 医療の側から見られた			
15	安楽死 患者の側から見られた			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	100%	ガイダンスで示した順序に従って倫理的問題が多角的な観点から論じられていること。		
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
生命倫理学入門	今井道夫		産業図書	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

# 令和8年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
物理学		講義	福林 秀幸	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 ( 1 単位)		8 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
必要最小限の基本物理学を修得する。				
授業の到達目標				
1. 力のつりあい、物体の運動について説明できる。 2. 平衡や安定性について、力学の概念を用いて説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	力学 ベクトルと運動の3法則			
2	力学 力のつり合いとベクトルの分解・摩擦		小テスト①	
3	力学 てことモーメント			
4	力学 定滑車と動滑車		小テスト②	
5	力学 エネルギー保存の法則 運動量			
6	力学 圧力と浮力		小テスト③	
7	力学 力学のまとめ			
8	波 単位の総論 波の基礎		小テスト④	
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	60%	授業内容の総理解力の評価。		
レポート・課題				
小テスト	40%	各单元ごとの小テスト計4回		
その他				
自由記載	必要に応じてプリントを配布する。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自然科学の基礎としての物理学	原康夫 著		学術図書出版社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
統計学		講義	小林 正明	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 ( 1 単位)		8 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
1. 医療における統計学の必要を認識する 2. 医療に関わる統計学の基本用語の意味、条件に合った適切な検定方法を修得する 3. 統計学に関わる計算の基礎を修得する				
授業の到達目標				
1. 医療分野における統計学の必要性を説明することができる 2. 医療統計の基礎的な専門用語を列挙でき、その意味を説明することができる 3. 医療統計に関わる基礎的な計算を実施することができる				
授業計画				
回	内容			
1	医療分野における統計学の必要性、理学療法士と研究について			
2	医療統計分野における専門用語とその意味、基礎的計算練習			
3	データの尺度の種類・代表値・散布度			
4	仮説検定について。差の検定・相関の検定			
5	正規分布・非正規分布の検定、対応あり・なしの検定、2群・3群以上の検定			
6	その他の検定			
7	オッズ比、感度・特異度			
8	まとめと練習問題			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	授業内容の総理解度を評価する		
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
リハビリテーション統計学	石川朗・種村留美・対馬栄暉・木村雅彦		中山書店	
自由記載				
備考				

# 令和8年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
生物学		講義	沖田 章子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
幅広い生物学の中で、医療系の学生として学ばなければならない大きな2つの柱「生物の原理」と「ヒトに関する基本」を修得する。そして、生物学への興味を深め、専門課程を理解できる基礎力をつけることを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 細胞の構造と機能を説明できる。      2. 遺伝子とは何かを説明できる。      3. 発生のしくみを説明できる。 4. 神経のしくみを説明できる。      5. 代謝のしくみを説明できる。      6. 免疫のしくみを説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス      学習の進め方 生物とは何か			
2	現代を生きる生命      細胞とDNA			
3	現代を生きる生命      ゲノム			
4	生まれ、成長し、死ぬためのしくみ 発生			
5	生まれ、成長し、死ぬためのしくみ 発生と遺伝子			
6	生まれ、成長し、死ぬためのしくみ 遺伝子と科学技術			
7	感じ、動くためのしくみ      感覚と神経			
8	感じ、動くためのしくみ      神経系			
9	生きるためのしくみ      代謝			
10	生きるためのしくみ      循環			
11	子孫を増やすしくみ      生殖			
12	環境に適応するしくみ      外的環境への適応			
13	環境に適応するしくみ      免疫			
14	生命が社会を営むしくみ      社会性を生み出す脳			
15	問題演習とまとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%	生物の基礎となるしくみを理解できているかを評価する。		
レポート・課題	20%	授業内容の理解度と課題に取り組む姿勢をもとに評価する。		
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
みんなの生命科学 第2版	北口哲也・塚原伸治・坪井貴司・前川文彦		化学同人	
改訂版 フォトサイエンス生物図録			数研出版	
自由記載	講義資料、図録に沿ったプリントを配布する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				
予習として教科書や図録を用いて生物用語の確認をすること、日常生活で医療や科学の話題に関心を持つことを希望する。				

# 令和8年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
医学英語		講義	野口 扶美江	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
医療現場・リハビリテーション現場でのコミュニケーション表現を学習する。そのために語彙を学び、発音の練習を行い、文法事項を確認し、更にリスニングの演習も行う。				
授業の到達目標				
臨床現場に必要な語彙・表現を習得し、コミュニケーションを円滑に行えるようにする。辞書を使って英文を読み解く事ができるようにする。				
授業計画				
回	内容			
1	Unit 1: Is this your first visit to this hospital?(p.2～p.6/p.78～p.79)			
2	Unit 2: What's the matter with you?(p.7～p.11/p.80～p.81)			
3	Unit 3: I'm going to take a blood sample(p.12～p.16/p.82～p.83)			
4	Unit 4: Let me explain our daily routine(p.17～p.21/p.84～p.85)			
5	Unit 5: I'm going to ask you about your lifestyle habits(p.22～p.26/p.86～p.87)			
6	Unit 6: Have you had any surgeries before?(p.27～p.31/p.88～p.89)			
7	Unit 7: Do you have any allergies?(p.32～p.36/p.90～p.91)			
8	Unit 8: How would you describe the pain?(p.37～p.41/p.92)			
9	Unit 9: How much can you move your legs?(p.42～p.46/p.93～p.94)			
10	Unit10: Let's start practicing getting into the wheelchair(p.47～p.51/p.95～p.96)			
11	Unit11: Let's make the walks longer(p.52～p.56/p.97～p.98)			
12	Unit12: You're from Australia, aren't you?(p.57～p.61/p.99～p.100)			
13	Unit13: Are you Ms. Brown?(p.62～p.66)			
14	Unit14: Rehabilitation can be challenging(p.67～p.71)			
15	Unit15: By working together, we can ease your concerns(p.72～p.76)			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	50%	単語を覚え、英文を正確に理解できる事を評価する。		
レポート・課題				
小テスト	40%	随時の単語テスト		
その他	10%	英語修得にむけて、講義中の積極的に聴き取ろう、話そう、読み解こうとする姿勢を評価する。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
Care for All 医療従事者のためのやさしい英語コミュニケーション	田中博晃・眞砂薫	成美堂		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				
必ず英和辞書を持参する事（紙でも電子辞書でもOK）				

# 令和8年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
保健体育 I		実技・講義	田中 靖人	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>様々なスポーツ種目の実践を通してスポーツの楽しさを味わうことと、チームスポーツを通してチームワークの気持ちを理解する。 また、スポーツの必要性や安全面について理解を深め、それらを実践に活かせるようにする。 さらに、健康とスポーツに関連するトピックに関する講義を通して、スポーツへの興味や関心を高める。</p>				
授業の到達目標				
<p>スポーツ活動を通して、身体のためのスポーツを実践したいという気持ちを養うことや、スポーツの楽しさを味わうことや、コミュニケーションツールとしてスポーツが活用されていることを理解する。 また、健康やスポーツに関して興味・関心を深めることができる態度を養成する。 本科目は「初級パラスポーツ指導員」資格取得に必要であるため、講義を通じ資格取得に興味を持ってもらいたい。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	講義：スポーツ活動における我が国の現状			
2	実技：ニュースポーツ 1-1 (アルティメット、ボッチャ、インディアカ、ドッジビー等)			
3	実技：ニュースポーツ 1-2			
4	実技：球技 1-1 (バスケットボール、バレーボール、フットサル、卓球等)			
5	実技：球技 1-2			
6	実技：球技 1-3			
7	実技：球技 2-1 (バスケットボール、バレーボール、フットサル、卓球等)			
8	実技：球技 2-2			
9	実技：球技 2-3			
10	実技：ニュースポーツ 2-1 (アルティメット、ボッチャ、インディアカ、ドッジビー等)			
11	実技：ニュースポーツ 2-2			
12	実技：ニュースポーツ 2-3			
13	講義：初級パラスポーツ指導員 資格対応講義 1 (障がい者スポーツの意義と理念)			
14	講義：初級パラスポーツ指導員 資格対応講義 2 (コミュニケーションスキルの基礎)			
15	講義：初級パラスポーツ指導員 資格対応講義 3 (安全管理)			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	100%	テーマに沿ったスポーツからの知識や経験が具体化されているかを述べてください。評価基準は別途指示します。		
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載	参考文献は定めませんが、必要に応じて指示することがある。			
備考				
<p>実技受講の際には、運動にふさわしい服装で臨み、装飾品等は危険防止のため外し、貴重品類は盗難防止のためグラウンドや講義には持ってこないこと。 けがや病気等で実技ができない場合は報告・相談すること。 天候や進度、履修者数によって実技種目や講義日を変更する場合があります。</p>				

科目名		授業形態	担当教員名	
情報処理演習		演習	田中 靖人	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
現代社会において高度情報化が進み、情報や情報技術を適切に取り扱うことが、医療現場において実習生・社会人の基本技能として求められるようになっている。情報処理演習では、学生一人一人が本学に設置されている情報機器等を活用し、安全かつ倫理的に情報を扱うことができ、学内生活・臨床実習のみならず、社会に出てからも情報化社会で活躍できるような基礎知識と技能を身に付けることを目的としている。				
授業の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Microsoft officeを用いて学校・社会生活に必要な定型書式の作成・編集方法が理解できること。</li> <li>・Microsoft officeを用いて記録物作成に必要な図表の作成・挿入、計算式を活用したデータ処理が理解できること。</li> <li>・Microsoft officeを用いてプレゼンテーションに必要な資料の作成方法、プレゼンテーション技法が理解できること。</li> <li>・インターネット環境における情報収集の行い方・情報管理の基本を理解できること。</li> </ul>				
授業計画				
回	内容			
1	医療関係者と個人情報			
2	ネットにおけるマナー			
3	【パソコンスキルの修得（Word 1）】操作方法を学ぶ・課題書類の作成			
4	【パソコンスキルの修得（Word 2）】操作方法を学ぶ・課題書類の作成			
5	【パソコンスキルの修得（Excel 1）】操作方法を学ぶ・課題書類の作成			
6	【パソコンスキルの修得（Excel 2）】操作方法を学ぶ・課題書類の作成			
7	【パソコンスキルの修得（Power Point 1）】操作方法を学ぶ・課題(プレゼンテーション)の作成			
8	【パソコンスキルの修得（Power Point 2）】操作方法を学ぶ・課題(プレゼンテーション)の作成			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	100%	課題はデータで提出してもらい、パソコンスキルの到達度を見ます。評価基準は別途指示します。		
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				
授業の進捗状況によって変更が生じる場合があります。パソコンで作成したデータを保存できるように、USBメモリーを各自用意してください。				

# 令和8年度シラバス

## 理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
キャリア教育 I		講義・演習	前川 加奈・福林 秀幸	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 2 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
この講義では主に知識・技能・態度の3分野について学ぶことを目的とする。知識では充実した学生生活を送るための勉強方法を修得する。技能では理学療法士の仕事について理解しコミュニケーションの大切さを知る。態度では目的意識を持ち各自のキャリア形成支援として学内での生活や実習での行動・心構えについて学ぶことを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 理学療法士・社会人になるために効率的な勉強が実施できるようになる。 2. 理学療法士の役割・仕事を具体的に述べることができる。 3. これから始まる実習において適切なマナーを説明することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	これからのビジョン①			
2	理学療法室の機器①			
3	理学療法室の機器②、スタディスキル			
4	スタディスキル			
5	先輩からのメッセージ			
6	社会人基礎力			
7	理学療法士の資質			
8	理学療法士科が働く施設①			
9	理学療法士科が働く施設②			
10	実習のマナー① 身だしなみ・挨拶			
11	実習のマナー② 表情・言葉遣い			
12	実習のマナー③ 態度・実習の準備			
13	実習のマナー④ 感想文の書き方・お礼状の書き方・封書の郵送方法			
14	実習のマナー⑤ 正しい手洗いの仕方・実習のマナーまとめ			
15	これからのビジョン② まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	70%	課題への取り組みや結果をもとに評価する。評価基準は別途示す。		
小テスト				
その他	30%	講義録の提出。評価基準は別途示す。		
自由記載	提出物は形式・期限を守ること。守れていない場合は減点する。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	レジュメ・講義資料を配布する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
理学療法概論テキスト 第4版	細田多穂 監修		南江堂	
自由記載				
備考				

# 令和8年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
解剖学 I		講義	荒川 高光	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
60 時間 ( 2 単位)		30 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
解剖学では、人体の構造を学ぶ。理学療法士を目指すみなさんにとって解剖学は、今後の学習の基盤となる学問である。理学療法士にとって重要な骨、関節、筋、神経系はもちろん、他の器官もまんべんなく、マクロレベルからミクロレベルに至るまで全てを網羅した知識としなければ患者を全人間的に把握することは不可能である。全身の解剖学を知り、理解できるようになることを目的とする。				
授業の到達目標				
全身の人体の解剖学を理解し、説明ができることができる。解剖学が今後の理学療法にどのようにつながっていくのかを考えながら応用することができる。				
授業計画				
回	内容		回	内容
1	人体の概要, 身体の区分, 解剖学的表現法と運動の表現		16	消化器系: 肝臓・胆嚢・膵臓
2	細胞		17	循環器系総論・血管の構造
3	組織学総論、上皮組織		18	循環器系: 心臓
4	支持組織		19	循環器系: 心臓II
5	骨学総論		20	循環器系: 動脈
6	関節・靭帯学総論		21	循環器系: 動脈II
7	骨学・関節学: 頭部・体幹		22	循環器系: 静脈
8	骨学・関節学: 上肢		23	循環器系: リンパ
9	骨学・関節学: 下肢		24	呼吸器系: 上気道
10	筋学総論・筋組織		25	呼吸器系: 下気道
11	筋学: 体幹・上肢帯		26	内分泌器
12	筋学: 自由上肢		27	泌尿器
13	筋学: 下肢帯・自由下肢		28	男性生殖器
14	消化器系: 口・咽頭・味覚器・食道		29	女性生殖器
15	消化器系: 胃・小腸・大腸		30	神経系総論・神経組織
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート・課題				
小テスト		適宜実施し、総合評価に加味する。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
授業資料を製本したものを使用する。				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

# 令和8年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
解剖学演習 I		演習・講義	小林 正明	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 ( 1 単位)		8 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
ヒトの四肢、体幹の骨格・関節に関する基礎知識を修得する 解剖学演習Ⅱに向けて骨名・骨名称を理解する				
授業の到達目標				
個々の骨の名称や部位名を正確に列挙し、説明できる				
授業計画				
回	内容			
1	総論 1 人体の区分、関節の運動方向の名称、運動面と軸			
2	総論 2 骨・関節の形状			
3	各論 上肢 骨・関節(肩甲帯、上腕)			
4	各論 上肢 骨・関節(前腕、手部)			
5	各論 下肢 骨・関節(骨盤帯、大腿)			
6	各論 下肢 骨・関節(下腿、足部)			
7	各論 体幹 骨・関節(脊柱)			
8	各論 体幹 骨・関節(脊柱、胸郭)			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	70%			
レポート・課題	30%	各講義の理解の習熟度を知るために課題を出し、内容を評価する。評価基準は別途示す。		
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系 第4版	坂井健雄・松村讓兒 監修		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢/ 同 下肢・体幹	林典雄 著		メジカルビュー社	
イラスト解剖学	松村讓兒		中外医学社	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
解剖学演習Ⅱ		演習・講義	前川 加奈・谷 和真・小堀 博史	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
四肢、体幹の運動器系の基礎知識の修得を目的とする。基礎知識の範囲は、①筋の名称と機能 ②神経の名称と機能、支配領域 ③主要な血管の名称と機能 ④各関節の運動方向と筋、神経の作用 である。				
授業の到達目標				
解剖学演習Ⅰの知識を使用し、①人体の主要な骨格筋の構造（起始・停止・走行・神経支配など）を知り、その作用を説明することができる。②脊髄神経の名称と機能、支配領域を列挙することができる。③人体の主要な血管の名称と機能を列挙することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	総論 筋・神経・血管(担当：谷)			
2	各論 下肢(担当：小堀)	1) 筋① 股関節の筋		
3	各論 下肢(担当：小堀)	2) 筋② 股関節内部の筋		
4	各論 下肢(担当：小堀)	3) 筋③ 膝関節の筋		
5	各論 下肢(担当：小堀)	4) 筋④ 足部の筋		
6	各論 下肢(担当：小堀)	5) 筋⑤ 筋まとめ、神経		
7	各論 上肢(担当：谷)	1) 筋① 上腕の筋		
8	各論 上肢(担当：谷)	2) 筋② 前腕の筋		
9	各論 上肢(担当：谷)	3) 筋③ 肩甲骨の筋		
10	各論 上肢(担当：谷)	4) 筋④ 手部の筋		
11	各論 上肢(担当：谷)	5) 筋⑤ 上肢の筋まとめ、神経		
12	各論 体幹(担当：前川)	1) 筋① 腹部の筋、頸部の筋		
13	各論 体幹(担当：前川)	2) 筋② 背部の筋、胸壁筋		
14	各論 体幹(担当：前川)	3) 筋③ 体幹の筋まとめ、神経・脈管		
15	各論 体幹(担当：前川)	4) 筋④ まとめ		
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	85%	上肢30%、下肢30%、体幹25%		
レポート・課題	15%	課題への取り組みや結果をもとに評価する。評価基準は別途示す。（上肢5%、下肢5%、体幹5%）		
小テスト				
その他				
自由記載	再試験は筆記試験100%（上肢35%、下肢35%、体幹30%）			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系 第4版	坂井健雄・松村譲児 監修		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				
自己学習を積み重ね、知識の修得に努めること。				

科目名		授業形態	担当教員名	
生理学 I		講義	石井 禎基	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
本講義では、生体の生命現象の機序について器官系別および複数の器官系の統合された機能としての解析と、生体恒常性 (ホメオスタシス) の維持に対する身体全体としての対応という観点から解説を行っていく。				
授業の到達目標				
到達目標 1 : ヒトの生理機能について理解する。 到達目標 2 : ヒトの身体は様々な器官系の統合により調節されていることを理解する。 到達目標 3 : 将来医療従事者として必要とされる基礎知識を習得する。				
授業計画				
回	内容			
1	細胞の構造と機能			
2	細胞膜・選択的透過性			
3	恒常性			
4	神経細胞の興奮			
5	興奮の伝導			
6	興奮の伝達			
7	中枢神経系			
8	高次神経機能			
9	末梢神経系 (体性神経)			
10	末梢神経系 (自律神経)			
11	骨格筋の収縮機構			
12	特殊感覚 (視覚・嗅覚)			
13	特殊感覚 (聴覚・平衡覚・味覚)			
14	体性感覚・内臓感覚			
15	前期のまとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
生理学テキスト 第9版	大地陸男	文光堂		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
人間発達学		講義・演習	酒巻 直美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
人間は生涯にわたり心身の構造や機能が変化していくものであり、人間発達学ではその変化を広く発達と捉えている。それぞれの発達期においてどのような発達過程にあるのかを学習する。特に理学療法に必要な基礎知識として、運動発達について深く理解することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 胎生期・小児期の成長、発達全般を説明することができる。2. 出生から歩行獲得までの運動発達の質的变化を理解できる。3. 運動発達のマイルストーンを説明することができる。4. 胎生期から老年期までの変化を発達と捉え理解できる。				
授業計画				
回	内容			
1	人間発達学総論			
2	胎生期の発達			
3	出生・新生児期			
4	小児期の成長と成熟			
5	運動発達総論・発達評価			
6	運動発達各論(1) 姿勢反射			
7	運動発達各論(2) 粗大運動の発達：背臥位			
8	運動発達各論(3) 粗大運動の発達：腹臥位の発達			
9	運動発達各論(4) 粗大運動の発達：座位の発達			
10	運動発達各論(5) 粗大運動の発達：立位の発達			
11	運動発達各論(6) 粗大運動の発達：歩行の発達			
12	微細運動・目と手の協調性・言語の発達			
13	乳幼児期の発達まとめ			
14	小児期以降の発達(1) 学童期・青年期			
15	小児期以降の発達(2) 成人期・老年期			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%			
レポート・課題	10%	課題は内容と提出状況を評価する。評価基準は別途示す。		
小テスト	10%			
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	随時講義資料を配布する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準理学療法学・作業療法学【専門基礎分野】人間発達学 第3版	加藤寿宏ら 編集		医学書院	
自由記載				
備考				

# 令和8年度シラバス

理学療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床心理学		講義	大原 亜由美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
臨床心理学の様々な分野を概観し基礎知識を身につけることを目的とする。また、将来的に携わる対人支援の分野で臨床心理の基礎知識が応用できるよう授業を進めていく。				
授業の到達目標				
・臨床心理、発達心理を説明できる。 ・臨床心理検査法を説明できる。 ・心理療法・カウンセリングについて説明ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション			
2	精神分析			
3	分析心理学			
4	人間性心理学			
5	行動心理学			
6	日本の心理療法			
7	発達心理学(1) 乳幼児期			
8	発達心理学(2) 児童期以降			
9	心理検査(1)			
10	心理検査(2)			
11	心理検査(3)			
12	心理療法と対人支援(1) 医療分野			
13	心理療法と対人支援(2) 教育分野			
14	心理療法と対人援助(3) 福祉分野			
15	まとめと振り返り			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	70%	臨床心理学の基礎的知識の習得を評価基準とする。		
レポート・課題				
小テスト	30%	毎回の授業の理解をもとに評価する。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
よくわかる心理学	無藤隆 他		ミネルヴァ書房	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
リハビリテーション概論		講義	坂東 恵美子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
リハビリテーションに関わる職種である理学療法士として、保健医療福祉分野で活躍するためにリハビリテーションの理念や分類について学ぶ。チーム医療の一員として、他職種から仕事の役割について講義してもらい理解を深める。また、障がい者や患者様の障害・生活機能について学ぶ。				
授業の到達目標				
1. リハビリテーションの理念について説明できる。 2. リハビリテーションの分類について説明できる。 3. 他職種について役割を説明できる。 4. チーム医療について理解する。				
授業計画				
回	内容			
1	講義オリエンテーション、リハビリテーションの理念			
2	ノーマライゼーション・IL運動			
3	自立とは、健康とは、QOLとは			
4	障害者とは			
5	ICIDH、ICF			
6	リハビリテーションの分類について（含 自立支援・就労支援）			
7	医学的リハビリテーションの流れ、保健予防の考え方			
8	地域包括ケアシステムについて			
9	専門職、チーム医療			
10	作業療法・作業療法士とは			
11	専門職について（発表）、多職種連携の理解			
12	障害のある方を招いて講演			
13	障害のある方を招いて講演			
14	障害のある方を招いて講演について			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	60%	数回提出する課題やプリント		
小テスト	40%	講義時に数回行う		
その他				
自由記載	提出物は形式・期限を守れているかを評価する。小テストは公欠、病欠のみ再テストする。 成績評価の判定が不合格だった場合、レポート・課題を再度課す。再課題については開講学期のみとする。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	適宜資料を配布する。講義資料としてファイリングすること。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
理学療法概論テキスト 第4版	細田多穂 監修		南江堂	
最新リハビリテーション基礎講座 リハビリテーション概論	佐伯 覚 他編著		医歯薬出版株式会社	
自由記載				
備考				
作業療法については作業療法士の先生に講義していただく。 障害のある方から講演していただく。講演の日程によって内容が前後することがあります。				

科目名		授業形態	担当教員名	
理学療法概論 I		講義	鮫島 一雄	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
本講義は皆さんが目標としている理学療法士になるための海図のようなものです。この科目の目的は理学療法および理学療法士とは何なのかを知りさらに理解し、自分自身の理想とする理学療法・理学療法士像を考えることができるようになることです。授業では、理学療法の概略を説明し、これから学んでいく科目を具体的に説明します。しかし船を動かすのは皆さんです。各自の自主性が大切です。				
授業の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学用語を読むことができる</li> <li>・理学療法の専門用語を知る</li> <li>・理学療法士の法律と関連法規を理解する</li> <li>・理学療法士の現状を知る</li> <li>・理学療法士の資質面の重要性を知る</li> <li>・理学療法業務を知る</li> <li>・基礎医学の必要性を知る</li> <li>・臨床医学の必要性を知る</li> <li>・個人情報保護、コンプライアンスについて理解する</li> <li>・理学療法教育を理解する</li> </ul>				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション	基本用語1-5	医療漢字p. 1前半	
2	PTOT法1 医療法、定義	基本用語6-10	医療漢字p. 1後半	
3	PTOT法2 医師の指示、医師法	基本用語11-15	医療漢字p. 2前半	
4	PTOT法3 名称独占、業務独占	基本用語16-20	医療漢字p. 2後半	
5	PTOT法4 国家試験、免許、開業権	基本用語21-25	医療漢字p. 3	
6	PTOT法5 登録理学療法士	基本用語26-30	医療漢字p. 4	
7	PTOT法6 秘密遵守、医療行為	基本用語31-40	医療漢字p. 5	
8	PTOT法7 理学療法の職域、職能	基本用語41-50	医療漢字p. 6	
9	各病期の理学療法の意義、目的	基本用語51-60	医療漢字p. 7	
10	理学療法とリハビリテーション	基本用語61-70	医療漢字p. 8	
11	医療倫理と理学療法倫理	基本用語71-80	医療漢字p. 9	
12	PTOT法と関連職種の資格法との関係	基本用語81-90	医療漢字p. 10	
13	コンプライアンス (法令遵守) とは	基本用語91-100	医療漢字p. 11	
14	理学療法および理学療法士の現状と課題			
15	理学療法教育、医療職に必要な資質 まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	10%	提出状況。		
小テスト	90%	授業中に複数回実施。		
その他				
自由記載	再試験は筆記試験とし、試験内容は小テストに準じる。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
理学療法概論テキスト 第4版	細田多穂 監修		南江堂	
理学療法概論 I II 33期生資料 (授業で配布)	担当教員作成			
自由記載	手持ちの漢和辞典・英和辞典又は電子辞書を授業中使用するので準備する事。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
理学療法特論 I		演習	谷 和真・前川 加奈	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>学生生活において理学療法士としての基本的資質の向上を目指す。体験や学習を通して理学療法士の仕事内容や在り方を認識する。学習方法を学び、科目学習の知識の定着を図る。</p>				
授業の到達目標				
<p>1. 体験や学習を通して理学療法士の仕事を理解し、理学療法士に必要な資質面の向上を図る。 2. 学習の方法を学び、科目学習・演習に活かすことができる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	学生生活オリエンテーション① 学生便覧、シラバス、ワクチン接種などの説明			
2	学生生活オリエンテーション② 学校生活全般について説明			
3	学生生活オリエンテーション③ 遠隔授業			
4	学生生活オリエンテーション④ 3年間の学校生活について説明			
5	科目学習・演習① 骨・筋 (下肢)			
6	科目学習・演習② 骨・筋 (上肢)			
7	科目学習・演習③ 骨・筋 (体幹)			
8	障害体験オリエンテーション			
9	障害体験			
10	2年生と合同授業：患者さまの気持ちを考える			
11	実習オリエンテーション① 身だしなみ準備			
12	実習オリエンテーション② 実習の準備			
13	実習オリエンテーション③ 手引きの説明			
14	実習オリエンテーション④ 課題の説明			
15	前期の振り返り・まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	70%	課題への取り組みや結果をもとに評価する。評価基準は別途示す。		
小テスト	20%	複数回実施する。		
その他	10%	事後課題、実習ファイルの提出。評価基準は別途示す。		
自由記載	提出期限を厳守すること。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
科目学習・演習では必要な教科書や資料を持参すること。				
自由記載	適宜資料を配布する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				
<p>理学療法士に必要な資質面の向上を図るため、名札の着用、スケジュール帳を持参すること。 配布資料はファイルで整理すること。</p>				